

浜坂病院 「新規入院の受け入れ再開について」

7月、院内において新型コロナウイルス感染症が発生したことに伴い、新規入院が一部制限されていましたが、院内の感染状況も収束したとの判断で、8月7日月曜日から新規入院患者様の受け入れが再開されています。

引き続き感染拡大防止に向けた対策が行われますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。
＜浜坂病院ホームページの情報＞

どうなる？ 巨大風力発電プロジェクト



7月の総務産建常任委員会で日本風力エネルギー株式の事業所が八頭町から鳥取市内に移転されたことと5月に歌長区長様に住民説明会開催の申し入れがあったとの報告がありました。

(断っていただいたとのこと)

照来小学校創立150周年記念式典

6月2日、新温泉町立照来小学校の創立150周年記念式典が開催されました。地域の皆様の努力によって維持されて来た学校だと思っています。

現在、児童数が50名程度となり、今後も学校を存続できるかは、山村留学児童の受入れなど地域の積極的な取り組みに掛かっていると思います。



『座談会』ありがとうございました！

有志議員が地域に出向く『座談会』は、8月5日の若松町（七釜）で37回目になりました。

それぞれの地域の課題や進展のない「浜坂認定こども園整備」のことなど、この町の行く末を案じ、今の課題解決を求められるご意見を多くいただきました。

今後の座談会への地域の皆様のご参加をお待ちしています。

一般質問：浜坂高校支援

【河越】浜坂高校がなくなっ
た場合、本町にとってど

のような影響があるとお考えか。

【町長】 なくならないので、そういう考えは一切持っていない。
【河越】 中学生に将来の自分のための進路として選んでもらえる学校でなければ、消滅したも同然だと思う。中高連携で1クラスになっても、何となく進学させる地域であってはならないと思うが、町長の考えはどうか。

【町長】 進学の理由はいろいろある。浜高は近い、みんな浜高だから、僕は目標を持って行ったというより、何となく進学した。浜高の魅力に引かれて進学するというのは理想だ。浜高は地域にはなくてはならない存在なので、いろんな面で支援していきたい。

【河越】 NHKの番組で隠岐の島・海士町の島前高校の魅力づくりにより2クラスの学校に蘇えらせた取組み等が紹介された。本町の浜高支援は、全く本気になっていないと思うがどうか。

【町長】 そういう発言は残念だ。そういう評価はとても残念だ。

【河越】 海士町の島前高校に対する取組みをどのようにお考えか。

【町長】 照来小学校の記念式典での講演の話は聞いたが、海士町に行ったことがないので、よく分からない。

【河越】 町長が議員時代に他の常任委員会かも知れないが、海士町の視察に行かれている。話を聞いておられないのか。

【町長】 行ったということは聞いている。

皆様は以上の遣り取りをどのように感じられるでしょうか。私は町長の当時の同僚議員が視察に行かれ、照来小学校の記念式典でのNTT西日本相談役の村尾さんの講演でも取り上げられた海士町の取組みに町長が全く関心を持たなかったことを実感し、浜高支援がもう一歩進まない現実を非常に残念に思いました。

むだばなし

パリオリンピック
が無事終了しまし

た。開会式の直前、フランス高速鉄道の複数路線での「破壊行為」があり、心配していました。

日本の選手も金メダル20個を含む45個のメダルを獲得し、大きな成果がありました。

その成果と共に全体的な日本人の臆することのない国際化を感じました。特にフィールド種目で初めて金メダルを獲得した北口榛花選手は、アスリートだったお母さんの助言を押し切って歩んだ競技者としての道が、良い結果をもたらしたもので、改めて、すばらしいと思いました。



我が家では初めて蓮の花が咲き、ちょっとした厳かな雰囲気を楽しむことができました。

コロナ禍で遠ざかっていた京都の墓参りと仏様のお迎えにも、家族で行ってきました。

愛犬てんも、立ち寄った上賀茂神社で一息つきました。



町政報告 2024年盛夏第27号

とち
柄の実 通信
(ただっちゃん つうしん)

発行：河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL0796-92-2428(事) 92-2550(自宅)

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp https://www.facebook.com/tadashi.kawagoe.1



照来小学校 創立150周年 昭和27年～平成元年の校舎

令和6年6月議会（無念：保育関係補正予算可決）

残暑お見舞い申し上げます。

皆様、良いお盆を過ごされたことと存じます。今後も、まだまだ猛暑が続きますので、くれぐれもご自愛ください。

今年の6月議会は、今までになく、無力感を味わうことになりました。それは、『約4億2千万円を投じることとなる大庭認定こども園の耐震補強・改修工事の設計・監理委託料（2,400万円）』及び『病児・病後児保育施設を小児科医院に近接した町有駐車場に独立新築する費用（設計監理委託料及び工事請負費計1,300万円）』を含む補正予算の各一部減額修正動議が、それぞれ7対8で否決され、補正予算が原案どおり可決されてしまったからです。

病児・病後児保育施設については、小児科医院のある共同住宅の一部を改造してに併設するという当初の計画が変更されたもので、「低年齢児の受入れができないこと」と「週4日間の開設であること」等に課題があり、更に安定的な運営形態に向けた見直しを求めるものでした。

大庭認定こども園の耐震補強・改修工事は、新築に相当する費用を投じながら、0歳児保育設備がないなど、重要な課題を残したままの高額な工事を耐震補強関連工事等最低限の工事に限定させるものでした。

これは、浜坂認定こども園の十分な整備に併せて、合理的な合流（統合）が可能な対応を求めるものです。

現時点で、浜坂認定こども園の整備方針を示さず、園整備の総枠予算・財源も示せない、計画性のない場当たり行政になっていると感じています。これで良いのでしょうか？

新温泉町議会議員

かわ ぐえ

河越ただし

住民の幸せ追及が町政のつとめ

2050年消滅する自治体にならないために(一般質問)

①多くの利用者をがっかりさせたりフレッシュ館の年間券の廃止

②世界農業遺産に認定された但馬牛の畜産振興としての糞尿処理対策

③若者の近隣他市町への移住(流出)対策

④地域の生徒のための浜坂高校への本格的支援

⑤有効な財源となる「ふるさと納税」の取組みなど、多くの視点で一般質問しましたが、「消滅」は地域力の減退という認識が伝わらず、危機意識の共有が全くできませんでした。大変残念です。



おんせん天国は、どこに？

浜坂地域の認定こども園整備検討経緯を振り返る！

浜坂認定こども園第一期整備検討委員会

津波の危険性による移転改築検討

2011年の東日本大震災の甚大な被害を発端にした浜坂認定こども園の移転改築（新築）の敷地選定を目的に平成28年5月から平成29年6月まで計8回の委員会が開催されました。

結果：「すこやか広場」が選定される

大庭との統合は議論しないとされながらも、少子化が進めば、新たに整備した浜坂認定こども園で大庭の子どもたちの受入れが可能になるとの見通しも示されていました。

結局、住民の反対もあり、町当局は「すこやか広場」への移転改築を断念されました。

浜坂認定こども園第二期整備検討委員会

津波の危険性減少を前提とした再検討

兵庫県が示す津波想定が見直され、浜坂認定こども園の現在地での津波の危険性が低くなったとの前提で、平成30年6月に第二期整備検討委員会が設置されました。

しかし、第一期での洪水の危険性の指摘を軽視した再検討がなされ、令和元年9月、現在地周辺の土地を追加取得して、規模的に将来の統合園を新築する方向で答申がなされました。

大庭認定こども園の耐震性不足判明

平成31年1月、大庭認定こども園耐震診断の結果、安全基準Is値が0.75であるのに対し、東西方向のIs値は0.38しかなく、強い地震に対し危険な施設であることが判明しました。

その時点で、耐震補強を早急に実施すべきだと指摘しましたが、令和4年7月に浜坂、大庭両認定こども園の改修工事計画が示されるまで、大庭認定こども園の整備は、浜坂認定こども園整備の後で実施するとの方針は納得できる理由が示されることなく、変更されませんでした。

その時点での計画は、仮設園舎に2億円を投じるというもので、令和5年3月議会では承認されませんでした。

河越の認識と立ち位置

町当局の当初の思惑

岡本町長、岡本教育長当時から、浜坂地域の認定こども園整備は浜坂、大庭の統合を見据えたものでした。この方針は、行財政的には納得できますが、その流れづくりを軽く扱われてこられたものと理解しています。

西村町政の施策対応

第二期整備検討委員会の答申前の平成30年9月議会に、現在地周辺の土地の鑑定委託料の補正予算が提案されましたが、その予算は議会が承認しませんでした。答申を待たずして、現在地周辺で事業を進めようとする姿勢は、整備検討委員会の答申が町長にとって、形式だけのものであったことを物語っています。

河越の当初の対応策

現在地周辺での整備を望んでおられる方々が確実におられ、明確にその意思表示をされてきたことを尊重するため、次のことを必須条件として、活動してきました。

- ① 職員さんの負担が少ない防災対策を講じること。
- ② 経費削減のため最大限、既存施設を活用すること。
- ③ 遠くない統合への道筋をつくっておくこと。

浜坂認定こども園・既提案イメージ



大庭認定こども園の高額な耐震改修工事が意味すること

改修工事の本来の目的

- ① 整備工事の経費を低く抑えること
- ② 文化財等歴史的価値の維持のため
- ③ 長期展望を確定できない時の整備
- ④ 建替えできない等の事情での整備

改修工事の目的は、上に掲げたような目的で実施されるのが、通常の方です。特に公共事業においては、基本的な原則です。

常識はずれの改修工事

①大庭認定こども園は文化財ではない

文化財等の新たな施設に置き替えることのできない場合や切れ目なく、同じ位置に存在しなければ、目的を達成できない場合などに、高額な経費を掛けて整備することがありますが、大庭認定こども園は、その対象ではなく、新築に相当する約4億2千万円の投入には、大半の方が納得できる根拠・理由がありません。

大庭改修整備計画等の課題

- ① 0歳児保育設備を整備しない施設
- ② 職員不足で土曜保育を実施できない

担当課の説明では、敷地が狭く、0歳児保育設備を設けることができないとのことでした。

大庭認定こども園は、職員配置の不足により、現在でも土曜保育の受け入れができず、浜坂認定こども園にて、土曜保育の共同受入れを実施している状況です。

つまり、職員さんの補充が大変困難な状況にあると言えます。

浜坂認定こども園整備のゆくえ

浜坂認定こども園整備の計画規模に関しては、子育て支援センターを含み、延べ面積は約1,900㎡との担当課のこれまでの説明でした。

現在の**浜坂認定こども園**の延べ面積は約1,040㎡で、最低基準ではあっても、現在の施設規模に対する定員は280名、職員体制による**定員は160名**ですが、令和6年7月1日現在の浜坂、大庭両認定こども園の利用園児総数は157名で、大庭認定こども園の園児を加えても、浜坂認定こども園の定員に余りがあることになります。

万一、大庭認定こども園の約4億2千万円の整備が実施されれば、浜坂認定こども園の統合園規模での整備には理由がなくなります。

不完全なこども園の押し付け

大庭認定こども園が高額な費用を掛けて整備されても、0歳児保育は新たに整備された浜坂認定こども園を利用せざるを得なくなり、大庭認定こども園の利用者の減少は、出生数の減少を超えます。

園庭やプールも他の園より狭く、通園バスや送迎にも課題が残ったままでは、浜坂認定こども園がより良好に整備されれば、長期に亘り不公平が続きます。



保育環境の改善が遠のく施策

職員不足への対応ができないことは、十分な保育ができないことです。**事業の方向転換を図るためには、地域の多くの皆様の声を議会に届けていただく以外に、方法はありません。**